



国内外の英知を結集する拠点（廃炉国際共同研究センター）

目標：日本原子力研究開発機構（JAEA）を中核とした国際的な研究開発拠点を構築し、国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流するネットワークを形成、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築する。

【今後の取組】

- 平成27年4月に、JAEA内に「廃炉国際共同研究センター」を設置。当面は、東海、大洗地区の既存の施設を活用。
- 福島での研究開発拠点としてJAEAが整備予定の「楢葉遠隔技術開発センター（平成27年度～）」、「大熊放射性物質分析・研究センター（平成29年度～）」を活用した共同研究事業を順次開始。
- また、幅広い分野に係る研究開発拠点として福島県内に「国際共同研究棟」を整備。（平成28年度～）

廃炉国際共同研究センター

国内外の研究者等100人～150人規模の参画を想定

東京電力、IRID、NDF

原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）、国際廃炉研究開発機構（IRID）、東京電力との連携、協力

連携・協力

東海・大洗等の施設を活用した事業
（平成27年4月～）

【廃炉等に関する研究開発の加速】

- ・核燃料取扱、分析、モニタリング技術
- ・デブリ取り出し、廃炉工法
- ・放射性廃棄物の取扱い、保管・管理など

【JAEA特有の試験施設群の活用】

- ・核燃料、放射性物質の使用施設
- ・高エネルギー量子照射施設 など

楢葉遠隔技術開発センター
（平成27年度～）



【廃炉に係る研究開発】

- ・遠隔操作機器開発（除染、観察、補修）等

大熊放射性物質分析・研究センター
（平成29年度～）

【廃炉に係る研究開発】

- ・難測定核種の分析、モニタリング手法開発等



福島県、環境省

連携・協力

環境創造センター
（平成27年4月～）

- ・環境モニタリング、環境回復研究

福島県ハイテクプラザ

- ・産学連携
- ・地域産業との協力

国際共同研究棟：福島県内（平成28年～）

【幅広い分野の研究開発】

- ・廃炉等の研究開発、人材育成の拠点
- ・福島第一近郊 ・延床面積約2,500m²
- ・国内外の大学、研究機関等が廃炉研究のために共同利用できる施設として整備。